

高学年 外国語活動学習指導案

授業日 平成26年9月30日(火) 授業B
授業者 附属新潟小学校 教諭 茂木 智弘
会場 4年2組教室

1 単元名 「時間割を比べよう」 “Hi, Friends! Lesson 7 What's this? Lesson 8 I study Japanese.”

2 本単元の価値

本単元は、主に学習指導要領「外国語活動」の以下の指導内容に基づくものである。

2 内容

- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
(3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。
- 2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。
(3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。

子どもたちは、本単元までに自己紹介 (Hello. How are you? など) ・プレゼント選び (What do you like? I like apples. など) ・数当て (How many ~s? など) ・道案内 (Turn left. Go Straight. など) のコミュニケーション活動を経験している。また、本研究の授業構造である①課題をもつ、②解決のために必要な英語に慣れ親しむ、③課題解決のためのコミュニケーション活動、④上手いかない困難点の共有とその解決策の検討、⑤課題解決のコミュニケーション活動の学習サイクルは、2単元 (自己紹介・プレゼント選び) で経験させている。そのため、子どもは徐々にではあるが英語で話せることも増え、英語を学ぶことや英語でコミュニケーションを図ることに慣れ始めている。このような子どもに、今までに経験のない状況や内容で、英語でコミュニケーションを図る機会を設定することで、英語によるコミュニケーションのさらなる可能性や有用性を感じさせることをねらいとした。

子どもたちにとって本単元の価値は、次の四点である。

一つ目は、新たな英語表現 (What's this? What do you study?) を必要とする状況を経験できるということである。今までの学習でも新しい表現の慣れ親しみつつ課題を解決していく経験はしているが、今回は時間割について知るための英語表現を使う。そうすることで子どもは、また一つ新たな場面での英語を使ったコミュニケーションの図り方を学ぶことができる。

二つ目は、日本語などの程度できるのか分からない未知の外国人とのコミュニケーションを経験できるということである。これまでの学習では、子どもたちの課題解決に必要なコミュニケーションの相手は、親しみのあるALTであった。しかし、今回は教師の友人であるゲストティーチャー (Carlyさん) とのコミュニケーションから課題を解決する場面を設定する。そうすることで子どもは、自分たちの英語が未知の外国人相手でも意思疎通が図れることを実感することができる。

三つ目は、コミュニケーションをテレビ電話でするということである。そうすることで子どもは、未知や遠くの相手や制限のある状況においても英語でコミュニケーションを図れた達成感をもつことができ、英語の可能性や楽しさを知ることができる。

四つ目は、互いの文化や生活習慣の違いや共通点に気付くことができるということである。今までは、相手のことを知る、自分のことを伝えるための課題であった。しかし、本単元では互いの国の小学校の時間割を比べることで互いの背景にある環境を知る活動となる。そうすることで、子どもは自国の文化や異文化への理解を深めることができる。

3 本単元で学びをつないだ姿と学びをつなぐ力

本単元で学びをつなぐ力を高めた姿とは、互いの国の時間割を知るために、What do you study? や What's this? と既有事項の英語表現・語彙を駆使して意思疎通を図り、違いや共通点を知る姿 (Cn) である。

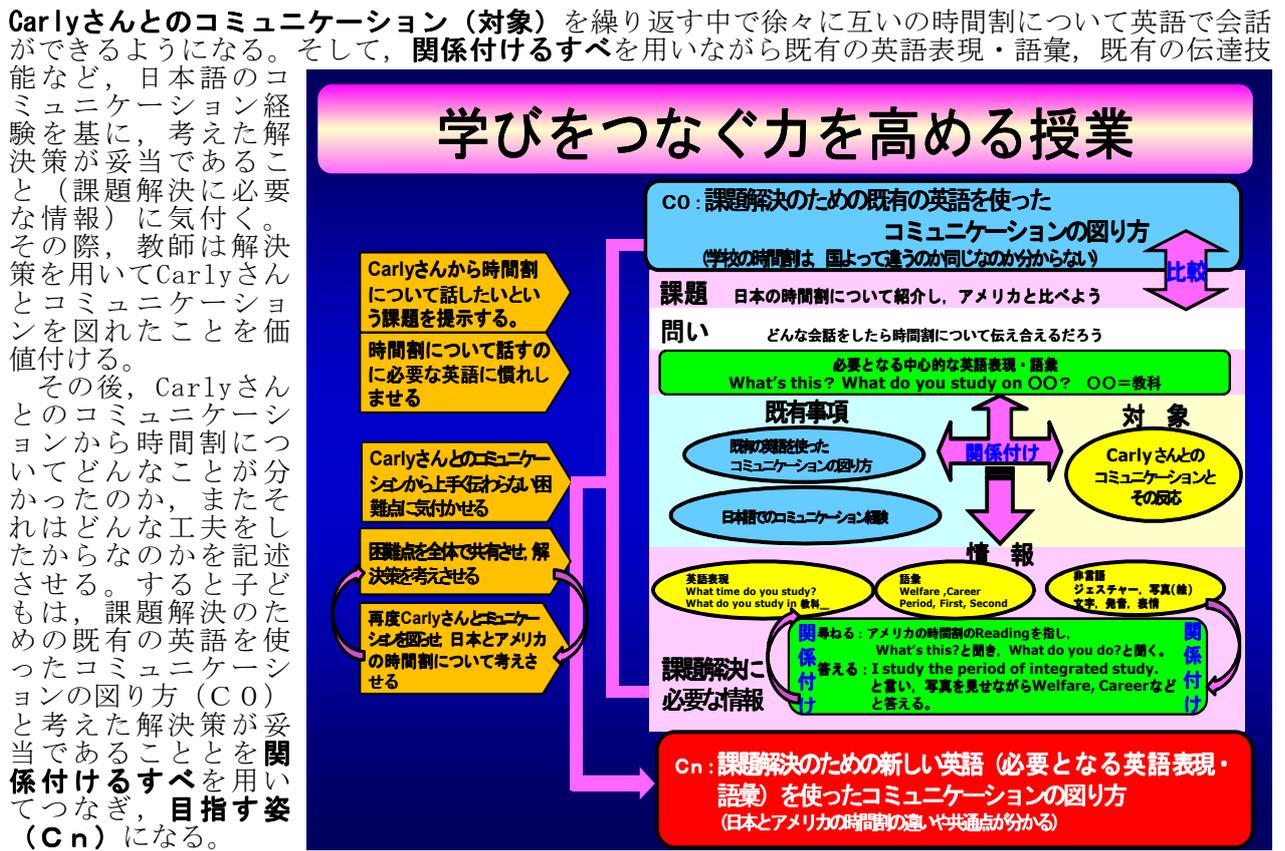
テレビ電話を通じてゲストティーチャーのCarlyさんからアメリカと日本の時間割についての課題を提示される。すると、子どもは課題解決のための既存の英語表現・語彙を使ったコミュニケーションの図り方 (C0) と課題とを比較するすべを用いて、Carlyさんと時間割について話すには、英語表現や語彙が不足していることに気付く。

そこで、不足している英語表現・語彙と日本語での会話とを比較するすべを用いて比較し、考えさせる。そして、新しい時間割にかかわる英語表現・語彙に出会わせ、それらに慣れ親しませる。

時間割にかかわる新しい英語表現・語彙を使えるようになった子どもにCarlyさんとのコミュニケーション (対象) 場面を設定する。すると子どもは話すための作戦を立て、Carlyさんとコミュニケーションを図るようになる。しかし、日本とアメリカの時間割の違いなどから上手く意思疎通が図れない状況になる。子どもは、Carlyさんとのやり取りからただ時間割にかかわる英語表現・語彙が使えただけでは、時間割を上手く説明できないという困難点 (情報) に遭遇する。

そこで、子どもにCarlyさんとのコミュニケーションから分かった困難点を問う。そして、学級全体で共有し、解決策を考えさせる。すると子どもは、困難点を乗り越えるためには、新しい英語表現・語彙の他に必要なもの (情報) があることに気付く。そして、既存の英語、既存の伝達技能、日本語でのコミュニケーション経験 (既有事項) を基に、時間割にかかわる英語表現・語彙と既存の英語、既存の伝達技能などを組み合わせて解決策を考えるようになる。

解決策を考えた子どもに再びCarlyさんとコミュニケーションを図る場面を設定する。子どもは、



とコミュニケーション（対象）を図らせる。すると子どもは、新しい英語表現・語彙をもとにコミュニケーションを図る。しかし、実際のコミュニケーションでは、ただ新しい英語表現・語彙を言うだけでは、上手く伝わらない、互いに理解し合えない困難点に遭遇（情報）する。このような状態に子どもが陥った時、子どもは新たな問いをもったと判断し、教師は次の働き掛けをする。

働き掛け4
分かったことや相手の状況から困難点を共有させ、解決策を考えさせることで、課題解決の見通しをもたせる。

困難点を共有させ、課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

実際のコミュニケーションで困難点となったことを共有させる。すると子どもは、困難点を乗り越えるためには、新しい英語の他に必要なもの（情報）があることに気付く。そして、既存の英語、既存の伝達技能、日本語でのコミュニケーション経験（既有事項）を基に、「新しい英語表現・語彙の繰り返し」「新しい英語表現・語彙+ジェスチャー」「新しい英語表現・語彙+その説明するための英語」など、新しい英語と既存の英語、既存の伝達技能を組み合わせるといふ解決策を考えるようになる。そこで、教師は解決策を整理し、視点を明らかにしていく。すると子どもは、解決策を基に、課題解決の見通しをもつようになる。

働き掛け5
直接会話をしながら再度コミュニケーションを図らせ、課題解決に向かわせる。

課題解決に向かわせるための働き掛けである。

子どもは、働き掛け4で課題解決の見通しをもっている。そこで、見通しをもった子どもにCarlyさんと再びコミュニケーションを図るための作戦を立てさせる。その後、実際にコミュニケーションを図れる場面を設定する。子どもは、**Carlyさんとコミュニケーション（対象）**を図る中で、徐々に互いの時間割について英語で伝え合えるようになる。そして、**関係付けるすべ**を用いながら、既存の英語、既存の伝達技能、日本語のコミュニケーション経験を基に、働き掛け4で見いだした解決策が妥当であること（課題解決に必要な情報）に気付き、課題解決に近づく。この時、教師は解決策を用いてコミュニケーションを図れたことを価値づけ、子どもに実感させる。

※働き掛け4と働き掛け5を繰り返す。

最後に、Carlyさんとのコミュニケーションから時間割についてどんなことが分かったのか、またそれはどんな工夫をしたからなのかを記述させる。すると子どもは、課題解決のための既存の英語を使ったコミュニケーションの図り方（C0）と考えた解決策が妥当であることを**関係付けるすべ**を用いてつなぎ、**互いの国の時間割を知るために、What do you study?やWhat's this?を基にした英語表現・語彙を駆使して意思疎通を図り、違いや共通点を知る（Cn）**ようになる。

6 本時の構想

(1) ねらい 7/7時間

互いの国の時間割について伝え合うために、比較・関係付けるすべを用いながら、新しい英語表現・語彙を駆使して意思疎通を図り、日本とアメリカの時間割の違いや共通点について知る（Cn）ことができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）
 自己紹介や好きなものについてのコミュニケーションの図り方を知っている。
 （学校の時間割はどの国も同じ。違うかもしれないが分からない。）

このように働き掛けると【働き掛け1】

- 既存の英語を使ったコミュニケーションの図り方では、解決できない時間割についての課題を提示する。
- ※ゲストティーチャーのCarlyさんから「日本の時間割を教えてください」というお願いが含まれたビデオレターを流す。（ビデオの中では、アメリカの時間割も提示する）
- 発問1「みなさん、Carlyさんからのお願いは分かりましたか」
- ※あらかじめ実態や学年を考慮した班編成をしておく。
- ※班に分かれてCarlyさんのビデオレターが入力されているタブレット端末を準備し、必要であれば、繰り返し見直すことができるようにする。
- ※分からない言葉については、ALTが補助をする。
- 発問2「次回テレビ電話でお話できそうかな」

このようになり（C1）

- Carlyさんのビデオレターの内容を知る。
 - ・英語が速くて分からなかった。
 - ・もう一度聞きたい。（アメリカの時間割を配布し、タブレット端末で繰り返し見直す）
 - ・あー、私たちの時間割を知りたいんだ。
 - ・Carlyさんのお母さん、先生だったよね。なんか、日本の時間割を知りたがっている感じ。
 - ・アメリカの時間割と日本の時間割は少し違うぞ。
 - ・今度、時間割について話そうって言っている気がするよ。
- 比較するすべを用いて、既存の英語表現・語彙によるコミュニケーションの図り方をもとに課題を解決しようとする。
 - ・音楽は、Music。算数は確かMath。理科は、Science。いやいや無理だよ。だって、どんな風に質問されるか分からないし。

- ・説明の仕方も分からないよ。
 - ・1時間目とか2時間目って言えない。
 - ・ちょっと無理だなあ。だって、好きなものと自己紹介しかまだ分からないし。
- ※このままでは、コミュニケーションを図れないという姿を問いをもった姿とする。

このように働きかけると【働き掛け2】

- 課題解決に必要な新たな英語に慣れ親しませる。
- 発問1 「Carlyさんと時間割について話す時、どんな会話が必要だと思いますか。日本語で考えみましょう」
- 補助 「Carlyさんからどのように尋ねられると思いますか」
- 表出させたい表現
- What's this(subject)? - This is (教科).
- What do you study (on 曜日)? - I study (教科).
- 指示「実際に出された英語を使って話してみましょう。」
- ※Hi, friendsの教材を使用し、慣れ親しませる。

このようになり(C2)

- 日本語での会話と必要な英語とを比較するすべを用いて考える。
- ・まず、教科を英語で言えないとダメだね。
- ・あと曜日も必要かも。
- ・多分、○曜日は、何を勉強するのって聞かれるじゃないかな。
- ・この教科は何ですかって聞けるといいな。

このように働きかけると【働き掛け3】

- テレビ電話でコミュニケーションを図らせることで、困難点に気付かせる。
- 指示「今日は、実際にCarlyさんとテレビ電話をつないで時間割についてお話をします。班になって予想される英会話を練習して、作戦を立ててみましょう」
- ※各班に作戦・メモ用のプリントを配布する。
- 指示「それでは、実際に電話をつないでみます。時間はあまり気にしないで、あいさつやCarlyさんの質問にもしっかり答えられるようにしましょう」
- ※コミュニケーションは、各班で考えた質問や紹介をもとに、全員で行う。

このようになり(C3)

- 班で立てた作戦をもとにCarlyさんとコミュニケーションを図る。
- Ex)G=Carlyさん C=子ども
- G:Hello! C:Hello!
- G:How are you? C:I'm good, and you?
- G:I have a question. Can I ask you? Ok? C:Yes, Ok.
- G:What do you study on Monday? C:I study Japanese.
- コミュニケーションの中で困難点に遭遇する。
- G:What subject do you have third period?
- C:...I don't know... the Period of Integrated Study?
- G:What's it? What do you do in this subject. C:...;
- C:What's this? G:It's library.
- C:?

このように働きかけると【働き掛け4-①】

- 分かったことや相手の状況から困難点を共有させ、解決策を考えさせることで、課題解決の見通しをもたせる。
- 発問1 「みなさんCarlyさんと時間割についてお話をして、どうでしたか。分かったことは何ですか」
- ※アメリカの時間割を黒板に提示し、子どもから発表されたものを教師が記入していく。
- 発問2 「これは、Carlyさんがみんなから聞いたことをもとに作成した日本の時間割です。上手く伝わったかな」
- ※アメリカの時間割と並べて提示し、比べられるようにする。
- 説明 「Carlyさんも日本の時間割が分かったようなそうでないような状態だったそうです。だから、今度直接みんなと話してもっと詳しく知りたいと言っていました。それにみんなにも直接会いたいと言ってくれています」
- 発問3 「みなさん、前回のテレビ電話でうまく伝えきれなかったことやアメリカの小学校の時間割を見て思ったことなどを次回伝えたり、尋ねたりできるようにするためには、どうすればいいと思いますか」
- ※解決策の中で新しい英語表現や語彙が出された場合は、負担のない範囲内で教え、使うことができるように慣れさせます。

このようになり(C4-①)

- 分かったことや相手の状況を確認することで困難点を学級全体で共有する。
- ※ア=アメリカの時間割に関する困難点 日=日本の時間割に関する困難点
- ア うん、アメリカの時間割は結構分かったぞ。でも、日本にあってアメリカにない教科があるな。これは、本当かな。

- ア アメリカでは、それぞれの教科でどんな勉強をするのかな。テストと違ってあるのかな。
 日 水曜日の時間割が上手く伝わっていないな。
 日 Carlyさんは、総合的な学習の時間が分からないって言った。アメリカにはないものだからかな。
 日 道徳(Moral)も上手く伝わらなかった感じ。学級活動(Classroom activity)も。
 ○解決策や尋ねたいことの尋ね方を考える。
 ア I study Moral, Calligraphy, Class activity, and Home economics. Don't you study?と聞いてみよう。
 ア What do you study in 教科?で勉強する内容を聞いてみよう。
 日 やっぱりFirst periodって○時間目はと言って伝えないとダメだね。
 日 総合的な学習の時間は、説明するのは難しいね。他の言葉で言い換えられないかな。

ここから本時

このように働き掛けると【働き掛け5-①】

- 直接会話をしながら再度コミュニケーションを図らせ、課題解決に向かわせる。
 ※困難点の内容の揭示。Carlyさんと会う前に、新しい英語表現に慣れ親しみ、使い方について班で最終確認する。
 発問「今日、Carlyさんと時間割について話せそうですか」
 説明「今まで、テレビ電話などを通じて、Carlyさんと日本、アメリカの時間割について話してきました。今日は、直接いらしているので、前回の授業で良く分からなかった、伝わらなかった点について話してみましょう」
 ※Carlyさんを招き、簡単なあいさつをして、コミュニケーションを始める。
 ※アメリカと日本の時間割は黒板に提示する。
 ※一人一回はコミュニケーションを図れるようにする。
 Carly ⇒まだ話していない子がいたら、指名をして会話をする。
 子ども⇒質問は、複数用意し、友だちの会話から関連して聞いてもよいようにする。

このようになり(C5-①)

- 班で自分たちの新たな問いの解決に必要な解決策を見つけ、作戦を立てる。
 ア What's this?と指を指して、教科を聞いてWhat do you study in 教科?で聞いてみよう。
 ア 時間割の時間のところを指して、What time?と聞いてみよう。
 日 前回、時間割の順番がバラバラになっていたから、こちらから木曜日の時間割を教えてあげよう。その場合は、1時間目から順番に言ってみよう。それでも伝わらなかったら時間割をさしながら説明してみよう。First periodとかも使うといいかな。
 日 総合的な学習の時間が上手く伝わらなかったから、Welfare, Carrierと言ってみよう。
 ○関係付けるすべを用いながら解決策の妥当性に気付く。
 Ex)G=Carlyさん C=子ども
 (日本の時間割)
 C:Hello! How are you?
 C:I'm great!
 C:First period is Science. Second period is...
 C:I study the Period of Integrated Study.
 C:Welfare and Carrier.
 (アメリカの時間割)
 C:What's this? (時間割を指しながら)
 C:What do you study in Sign language?
 C:Really?
 G:Hello! I'm good, and you?
 G:What do you study on Wednesday?
 G:Oh, OK! You study Science...
 What do you study in the 4th period on Thursday?
 G:OK! What do you do?
 G:What's mean?
 G:It's Sing language.
 G:I study the hand sign.
 (ジェスチャーを付けて)

このように働き掛けると【働き掛け4-②】

- 分かったことや相手の状況から困難点を共有させ、解決策を考えさせることで、課題解決の見通しをもたせる。
 発問1「みなさん、アメリカと日本の時間割について分かりましたか。まだ、よく分からない、伝わらないということはありませんか」
 発問2「時間割についてまだ、伝えたいこと、聞きたいことはありませんか。」
 ※解決策の中で新しい英語表現や語彙が出された場合は、負担のない範囲内で教え、使うことができるように慣れさせます。

このようになり(C4-②)

- 困難点や日本とアメリカの学校の違いなどを学級全体で共有する。
 ア あれ、そう言えば掃除の時間がないぞ。どうしてか聞いてみたい。
 日 やっぱり、総合的な時間は上手く伝わらないな。どうしたらいいんだろう。
 ○解決策や尋ねたいことの尋ね方を考える。
 ア 日本の時間割の掃除の時間を指して、This is Clean time.と言って、その後にアメリカの時間を指さしながらWhereと言いながら聞いてみる。
 日 写真見せて、ジェスチャーも加えてみよう。

このように働き掛けると【働き掛け5-②】

- 直接会話をしながら再度コミュニケーションを図らせ、課題解決に向かわせる。
発問1「みなさん、Carlyさんに自分の伝えたいことや聞きたいことを英語で話せそうですね。(少し間を置く)これがCarlyさんと時間割について話せる最後のチャンスです。聞き忘れなどがないように、最終確認をしましょう。時間は5分です」
※全員で確認させ、役割分担をする。
指示「それでは、Carlyさんともう一度、時間割について話をしましょう」
※残り時間があればフリートーク形式で話をさせる。

このようになり(C5-②)

- 班で立てた作戦をもとにCarlyさんとコミュニケーションを図る。
・ぼくが、時間割を指すから〇〇さんは、This is Clean time.と言ってね。そしたら、△△さんは、アメリカの時間割を指して、Where?と言う。
・総合的な学習の時間もみんなで協力して説明しよう。◇◇さんは、写真をもってThisと言う。
□□さんは、英語で説明してね。
- 関係付けるすべを用いながら解決策の妥当性に気付く。
Ex)G=Carlyさん C=子ども
C:Do you have any questions? G:Yes. I want to know the Period of Integrated Study.
C:OK. (写真を提示しながら)Welfare and Career education. G:Oh, I understand. Thank you.
C:May I ask you? G:Yes, OK.
C:(日本の時間割を指しながら).....
This is clean time. G:Oh, I see. We don't have clean time.
アメリカの時間割を指して)Where? C:Really?

このように働き掛けると【検証のための働き掛け】

- Carlyさんとコミュニケーションを図る中で、時間割についてどんなことが分かったのか、またそれはどんな工夫をしたからなのかを記述させる。
指示「みなさんは、今回の授業でどんなことが分かりましたか。そして、それはどんな工夫をしたからですかどんなことが振り返って記述しましょう。」
※記述用のプリントを各個人に配付。

このようになる(Cn)

- 関係付けるすべを用いて、今回の授業を振り返り、感動を記述する。
・私は、総合的な学習の時間をCarlyさんに伝えるのが難しかったです。何故なら、アメリカには、総合的な学習の時間がないからです。でも、友達と相談して、絵をみせながらWelfare and Career education.と言ったら分かってくれました。とても嬉しかったです。私は、アメリカの時間割で掃除の時間がないことを聞こうと思いました。だから、まず日本の時間割の掃除の時間を指し、その後にアメリカの時間割を指しながらWhere?と言いました。すると、Carlyさんは、アメリカには、掃除の時間がないと言っていました。私は、とても驚いたし、うらやましく思いました。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、考えるすべを用いて、課題解決に必要な情報と既有事項とをつなぐことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、学びをつなぐことができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け5により、互いの国の時間割を知るために、関係付けるすべを用いながら、.....のような既存の英語、既存の伝達技能、日本語のコミュニケーション経験を基にしたコミュニケーションの図り方を工夫してCarlyさんと意思疎通が図れていたか子どもの姿で検証する。
※コミュニケーションの図り方を工夫する姿とは、次のようなことを姿をいう。
ア) 時間割に必要な英語と既存の英語を組み合わせている。
イ) 時間割に必要な英語と既存の伝達技能などを組み合わせている。
ウ) 必要になった新たな英語を知り、使っている。
※ア)イ)ウ)のどれか1つ以上の姿が見られる。
- ② 検証のための働き掛けにより、.....のように互いの時間割を知るためのコミュニケーションの図り方を工夫し、.....のような意思疎通が図れたことを記述をしているかで検証をする。
※記述における英語表記の部分は日本語でも構わない。
※①と②の両方をもって表れありと評価する。